

# 日本の統一的土壌分類体系（第二次案）

（中間報告（1））

日本ペドロロジー学会第四次分類・命名委員会<sup>1)</sup>

Committee for Soil Classification and Nomenclature: Unified Soil Classification  
System of Japan (2nd Approximation)  
(An Interim Report (2))

## 1、第四次分類・命名委員会の発足

第三次分類・命名委員会から第四次分類・命名委員会への引継は1998年4月7日に京都大学で行われ、菊地ペドロロジー学会長の指名により、事務局長が指名された後、林野土壌グループ、火山性土壌グループ、石灰質土壌グループ、台地土壌グループ、低地土壌グループの責任者が選任されました。その際に、造成土壌グループを新たに組織する必要があるとの認識から、その責任者も選任されました。その後、各グループを構成する委員が推薦され、依頼状が後日事務局より送付されました。事務局からの依頼に対して、委員を承諾して頂いた方々の氏名が、ペドロジスト誌の第42巻第2号に掲載されています。この掲載された時点で、第四次分類・命名委員会が実働し始めました。

## 2、第四次分類・命名委員会の活動方針

第四次分類・命名委員会の責任者および分類・命名委員会委員長による話し合いの結果、原案をグループの責任者が作成し、その原案に対して各グループの委員が意見を述べるという方式で分類・命名案の作成を推進することが確認されました。現在、グループ責任者は、以下の諸点に留意して、第2次案の原案を作成しています。

- 1) 第二次案では、第一次案で提案された土壌群・亜群の妥当性についての再検討を行う。
- 2) 分類基準として用いる特徴土層、識別特徴などの種類を吟味し、それらの定義を行う。
- 3) 特徴土層、識別特徴を用いた土壌群、亜群の定義を行う。
- 4) キーアウト方式を導入して、土壌分類を行う。

上記の諸点は、第三次分類・命名委員会において議論され、承認されたもので、すでにこの方針に沿って、低地土壌については、その分類・命名が行われました。その分類・命名案を次に示します。

（このスペースに、低地土壌の分類基準の試案、分類キー試案が挿入されます。）

この低地土壌の分類基準試案および分類キー試案を参考にして、他のグループでも分類・命名を進めています。

### 3、現在の活動状況と今後の予定

4月3日に、第2回分類・命名委員会責任者会合が行われ、各グループから原案が提出されました。説明の後、各グループの原案に対して議論が行われました。その結果を踏まえて、再度原案を修正し、次回の責任者会合までに、各グループの委員の意見を集約することになりました。

次回の委員会は、8月1日に開催され、土壌群のキーアウト案に関しても議論される予定です。また、作成途中の原案ですが、成案に近いグループの分類・命名案について、8月2日から北海道で開催される、ペドロジスト野外巡検において、関連断面の前にて、責任者が説明をする予定となっています。

最後になりましたが、以上の経緯については次号のペドロジスト誌に、報告する予定です。会員の皆様からのご意見をお待ちしています<sup>2)</sup>。

---

<sup>1)</sup> 責任者：伊藤豊彰（火山性グループ）、菊地晃二（委員長）、小崎隆（低地土壌グループ）、中井信（台地土壌グループ）、永塚鎮男（石灰質土壌グループ）、平井英明（事務局長、林野土壌グループ）、岡崎正規（造成土壌グループ）

<sup>2)</sup> 連絡先：〒321-8505, 宇都宮市峰町350 宇都宮大学農学部土壌学研究室 平井英明、 E-mail: hirai@cc.utsunomiya-u.ac.jp, Tel: 028-649-5423,5424, Fax:028-649-5401